

登録橋梁基幹技能者 平成23年度試験問題

[解答作成の注意事項]

1. この試験問題は、**四肢択一式 50 問で全て必須**です。問題ごとに正解は1つしかありません。1問につき2つ以上解答すると、その問題の解答は無効になります。
2. 解答は、**解答用紙に記入**してください。
3. 解答用紙の所定欄に、**受講番号**を記入して下さい。（氏名を書く欄はありませんので、受講番号を間違えないように注意してください。）
4. 解答記入は鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから新しく記入してください。

[その他の注意事項]

1. 試験係員の「始め」の合図があるまで、試験問題の内容を見てはいけません。
2. 「始め」の合図があったら、ただちにページ数の不足および印刷の不鮮明なところがないことを確かめて下さい。もしあったら取り替えますから、手をあげて試験係員に申し出て下さい。
3. 試験問題の内容についての質問には、お答えできません。
4. 式あるいは文章等を記憶する機能を有する計算機（例えば、ポケットコンピュータ、電子手帳等）・携帯電話機は、使用を禁止します。
5. この試験の解答時間は、「始め」の合図があつてから **1 時間 30 分**です。**試験開始後 1時間および終了前 10 分間は退場できません。**
6. 試験開始後 1 時間から試験終了前 10 分までの間に途中退場を希望する人は、解答用紙および試験問題用紙を机の上に裏返しにしておき、手をあげてから、試験係員の指示を得て、静かに退場して下さい。ただし 16 時 30 分から終了式を行いますので、時間になったら席についてください。
7. 「終り」の合図があったら、ただちに解答の作成をやめ、解答用紙を机の上に裏返しにし、試験係員が回収するまでそのまま待っていて下さい。試験終了後は試験問題用紙を持ち帰ってもかまいません。

受講番号 _____

- ・途中退場して試験終了後に本試験問題用紙を受取りにくる場合、あらかじめここに受講番号を記入して下さい。（自分のものであることの確認のため）

安全管理の問題

※ 1)～9)の間で()にあてはまる答えを選び、番号で答えなさい。

- 1) 労働災害の分類において()とは、労働災害により負傷または疾病の療養のため休業をやむなくされる労働災害で、1日以上としている。

① 死亡災害 ② 不休災害 ③ 休業災害 ④ 自然災害

- 2) 労働災害が発生すると、事業者やその代行者に、種々の法律の責任が生じる。責任の種類で分類すると「()」、「民事責任」、「行政責任」、「社会的責任」となり、これをいわゆる「事業者の四重責任」と言う。

① 自己責任 ② 刑事責任 ③ 過失責任 ④ 公的責任

- 3) 建設業において、高所からの墜落・転落による労働災害が多発していることから、足場等からの墜落防止等の対策の強化を図るため、足場、架設通路および作業構台からの墜落防止措置等に関し、労働安全衛生規則の一部(足場等関係)が改正(平成21年6月1日から施行)された。()では交さ筋かい下部のすき間からの墜落を防止するため、交さ筋かいに加え、「下さん」や「幅木」等の設置、または、「手すりわく」の設置が必要になった。

① わく組足場 ② つり足場 ③ 添接足場 ④ 通路足場

- 4) 建設業の事業者は平成18年4月から、危険性又は有害性等の調査(リスクアセスメント)を実施し、その結果に基づいて検討した()対策を実施して、未然に労働災害を防ぐことが求められるようになった。(労働安全衛生法28条)

① 地震 ② 雇用 ③ 経済 ④ 災害防止

- 5) 安全帯の適切な使用方法は、安全帯のベルトは腰骨近くに装着し、()は腰より上に着環するのが望ましい。

① カラビナ ② バックル ③ フック ④ D環

6) 建設現場における感電災害の防止として、()の近くで作業を行う場合は、電力会社に事前に連絡を取らなければならない。電力会社担当者の立会い、またはその指示による防護対策の処置が必要になる場合がある。

- ① 送電線 ② 可燃物保管場所 ③ 鉄道沿線 ④ 高速道路

7) 鋼橋の架設において、()により構成されているもので、その高さが5m以上または橋梁の支間が30m以上である部分の作業には、鋼橋架設等作業主任者を選任しなくてはならない。

- ① コンクリートと鉄筋 ② 金属製部材 ③ 鋼製の足場材料
④ PC鋼材

8) 玉掛けワイヤロープの安全係数は()とクレーン等安全規則で定められている。(クレーン等安全規則213条)

- ① 2.0以上 ② 4.0以上 ③ 6.0以上 ④ 8.0以下

9) 事業者は中震以上が発生した後において、足場における作業を行うときは、作業開始する前に点検し、異常を認めるときは、直ちに補修しなければならない。(安全衛生規則567条)このときの中震以上とは()の地震をいう。

- ① マグニチュード7.0以上
② マグニチュード8.0以上
③ 震度階級3以上
④ 震度階級4以上

- 10) 下図の事故・災害発生状況において、①～④のうち、事故・災害原因として明らかに関係ないものはどれか番号で答えなさい。

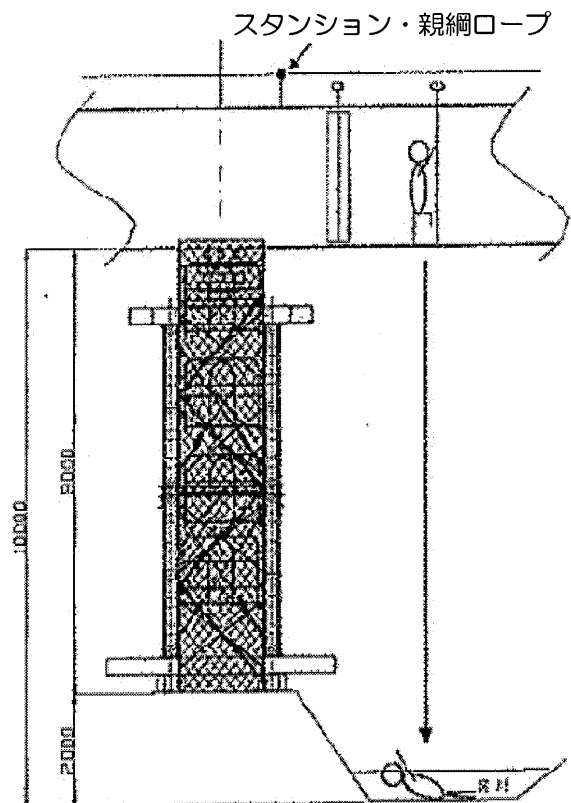
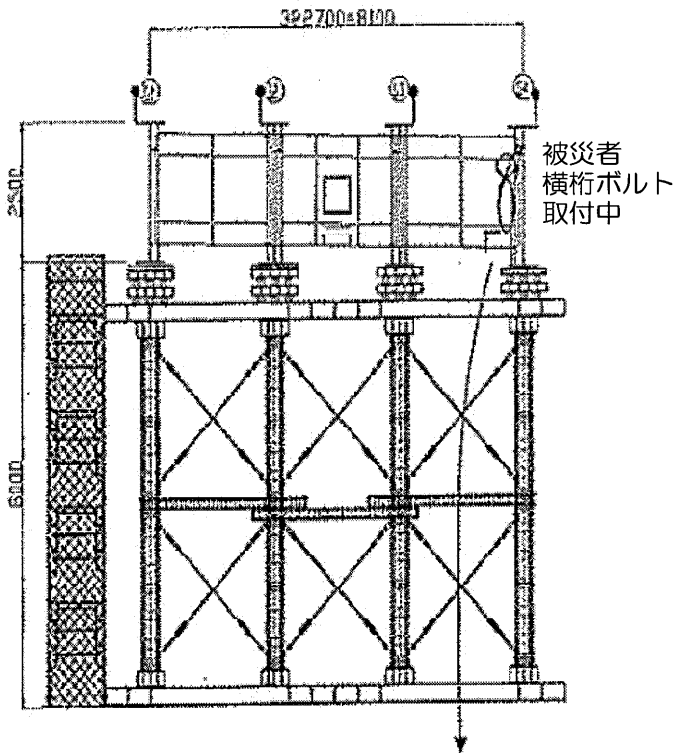
事故・災害発生状況

墜落防止設備がない所で横桁取付中に作業員が墜落した。主桁架設した後、横桁を取付中に、ボルトを締め付けようとしたところ、ボルトからラチェットレンチが外れ、バランスを崩して墜落した。横桁付近に足場や親綱はなく、安全帯も使用していなかった。

(平成22年11月26日金曜日)

正面図

側面図



※とび工 46歳 経験8年 入場23日目 第12胸椎破裂骨折 休業90日

- ① 墜落防止のための措置が行われていなかった。(足場なし、親綱なし、手順書なし)
- ② 安全帯を使用していなかった。
- ③ 熱中症が発生しやすい作業環境で、水分の補給は行っていたが、休憩時間を取る頻度が不足していた。
- ④ 鋼橋架設作業主任者が監視していなかった。

架設概論の問題

11) 橋梁工事において、支間60mの場合、施工計画書の労働基準監督署への提出期限について、正しいものはどれか。

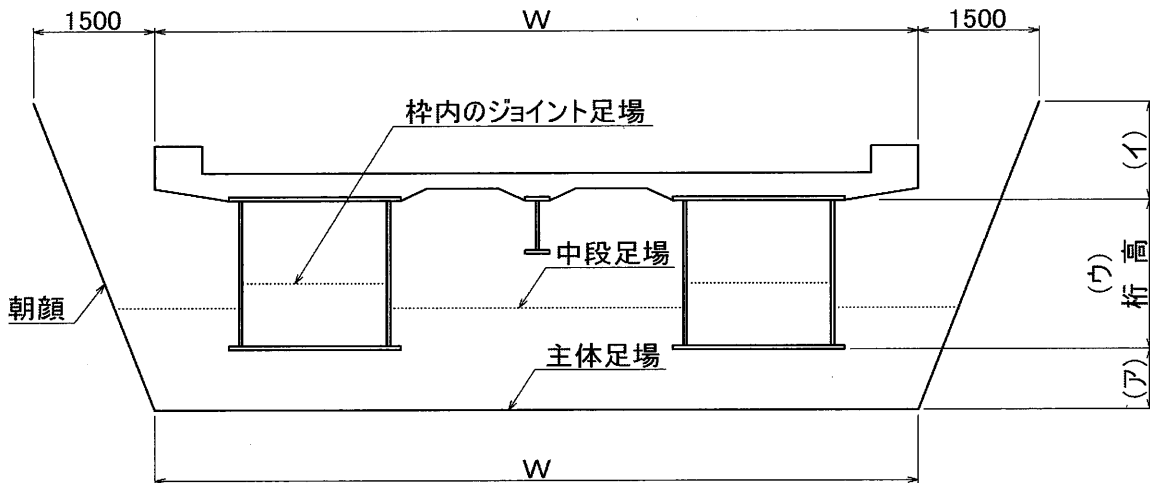
- ① 7日前 ② 14日前 ③ 30日前 ④ 60日前

12) クローラクレーンの特徴について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① クローラシュー全体で接地圧を分散できるため、比較的軟弱な地盤や栈橋上での施工に適している。
 ② 水平に調整する機能がないので、5%程度までは施工が可能であるが、この傾斜を超える場合は、地盤を整地するなどして据付けヤードを水平に保つ必要がある。
 ③ 構造上一般道路を走行することができないため、施工の都度、工事現場ヘトレーラで輸送して組立・解体を行う必要がある。
 ④ ブームは固定式のため、旋回・移動等に制限を受ける。

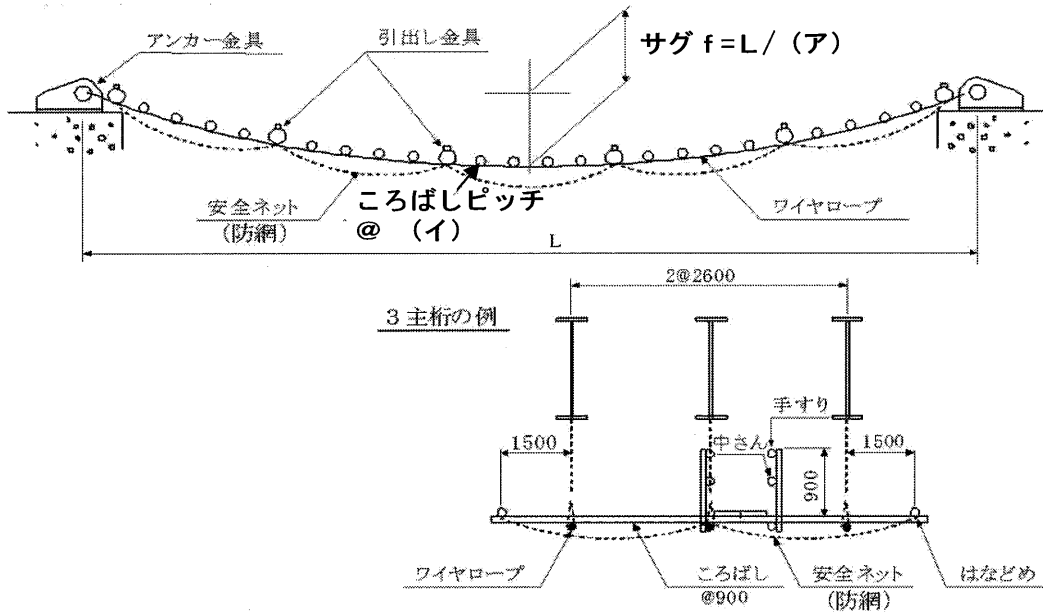
13) 箱桁の吊り足場の構造標準で、下記の1～3の記述内のア～ウに該当する数値の組合せで正しいものを①～④の解答群より選びなさい。

- 桁下端から主体足場上面までは（ア）mmを標準とする。
- 朝顔は、床版工事における作業性及びコンクリート打設時のはね返りを考慮し、主桁上面から（イ）mの高さを標準とする。
- 桁内のジョイント足場は桁高が（ウ）mを超える場合に設置し、桁高が3.9mを超える場合には、1.8m増すごとに増設することを標準とする。



- | | | | |
|---|-------|-------|-------|
| ① | ア-800 | イ-1.3 | ウ-2.1 |
| ② | ア-600 | イ-1.3 | ウ-1.5 |
| ③ | ア-800 | イ-1.5 | ウ-1.5 |
| ④ | ア-600 | イ-1.5 | ウ-2.1 |

- 14) ワイヤブリッジの図および記述について、ア～ウに該当する数値の組合せで正しいものを下の解答群より選択し、その番号で答えなさい。

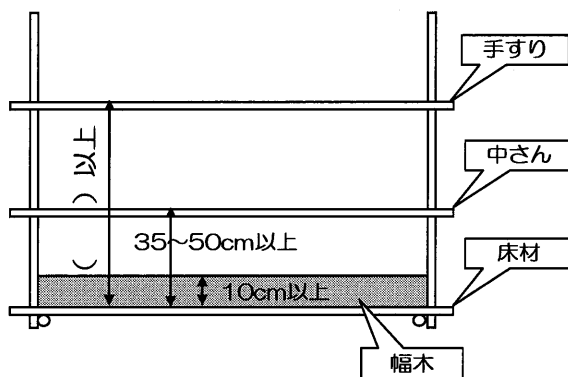


注) ワイヤブリッジの安定性確保のため、ワイヤ本数 (ウ) 本以上とする。

- | | | | |
|---|-------|--------|------|
| ① | ア- 6 | イ- 600 | ウ- 2 |
| ② | ア- 6 | イ- 900 | ウ- 3 |
| ③ | ア- 12 | イ- 900 | ウ- 3 |
| ④ | ア- 24 | イ- 900 | ウ- 4 |

- 15) 下の参考図 (単管足場) に示す足場について、() 内にあてはまる正しい数値を①～④の中から選び、その番号で答えなさい。

参考図 (単管足場)



- ① 75 cm ② 85 cm ③ 90 cm ④ 100 cm

16) 主体足場の記述で、() 内にあてはまる言葉を下の①～④の番号で答えなさい。

主体足場は、作業者が作業を行う場合の足場設備で、桁下全面に設置するつり足場をいい、トラス、アーチ等では() に設置される。

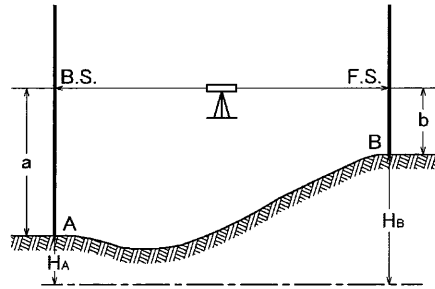
- ① 上面 ② 下面 ③ 上面と下面 ④ 部分的

17) ベント工法における留意事項について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① 軟弱地盤では碎石等で地盤を補強する。
 ② 長尺ベントは曲げ座屈しないように検討する。
 ③ 解体は常に組立と反対の方法で行う。
 ④ ベント組立途中は、支柱・控え索等で転倒防止を行う。

18) 次の間で() 内にあてはまる数値を、番号で答えなさい。

下図において、水平視準線により、2点A、Bに立てた標尺を視準してその読みを $a : 2.000\text{m}$ 、 $b : 1.200\text{m}$ とした時、B点の地盤高 H_B は() mとなる。なお、A点の地盤高 H_A は 15.000m とする。



- ① 15.800 ② 14.200 ③ 16.200 ④ 13.800

19) 水準測量において、レベルブックに記載する略記号についてその用語の意味を下の解答群より選択し、その番号で答えなさい。

略記号	用語の意味
ア - B. S.	a - 器械高
イ - I. H.	b - 後視
ウ - G. H.	c - 地盤高

- ① ア-b イ-a ウ-c
 ② ア-a イ-b ウ-c
 ③ ア-c イ-a ウ-b
 ④ ア-b イ-c ウ-a

[注記] B. S. : (back sight)
 I. H. : (instrument height)
 G. H. : (ground height)

20) ジャッキに関する記述について、誤っているものは①～④のどれか。

- ① ジャッキの選定は、各ジャッキに作用する反力以下であれば不均等荷重などを考慮する必要はない。
- ② センターホールジャッキは、ジャッキの中心に筒状に貫通する孔があいており、そこにロッドを通して上昇・降下する。
- ③ ジャッキダウン作業は、「戻」のレバーで行うと急に降下するため、圧抜きバルブを少しずつ開けて降下する。
- ④ 4連異荷重ポンプユニットは、4系統の独立した油圧回路が内蔵されているため、4系統の荷重にばらつきがあっても同時上昇が可能である。

21) 落下物に対する防護について、国土交通省より通達されている架設材によって覆いが必要な範囲を下図に示す。()にあてはまる適切な角度はどれか。

- ① 85°
- ② 75°
- ③ 65°
- ④ 55°

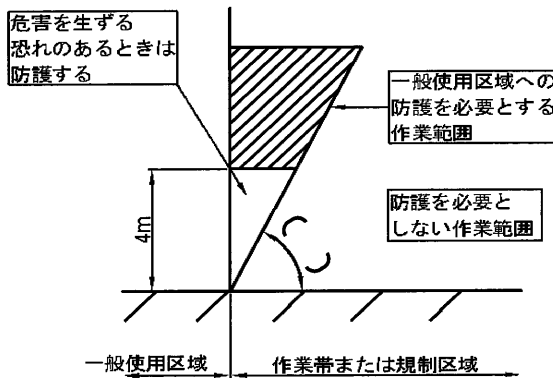


図-1 俯角の取り方

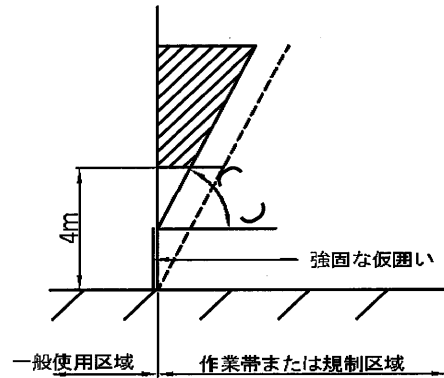


図-2 俯角を緩和する方法

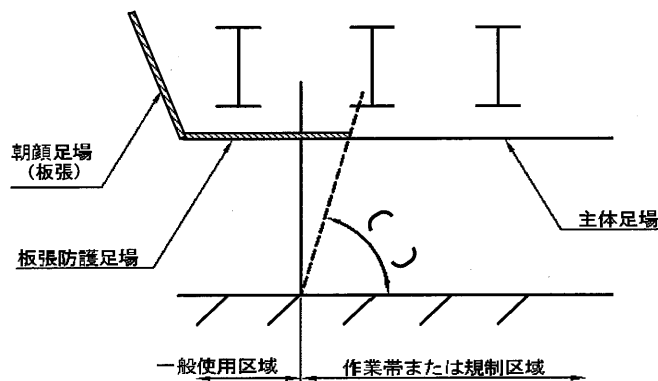
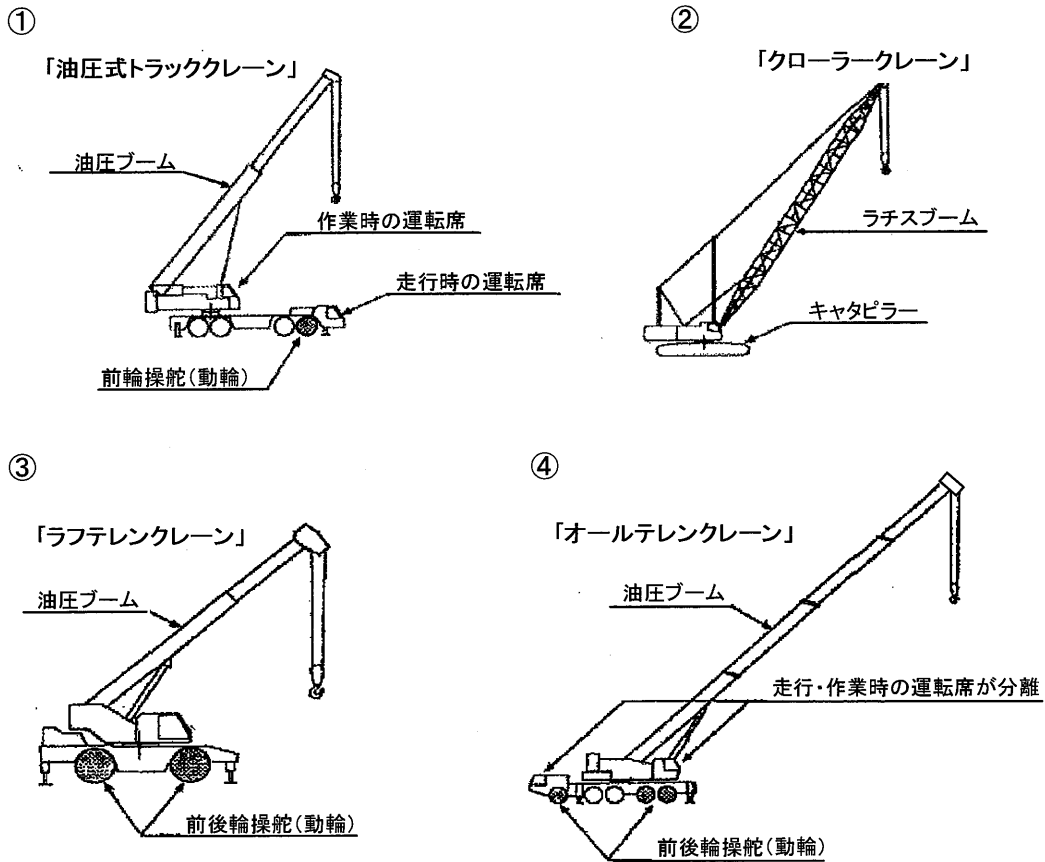


図-3 吊足場設置時の保護

22) 架設に使用する自走式クレーン車のうち、前後輪とも操舵可能であり、定格荷重50 t吊りを超える機械で、走行・作業時の運転席が分離構造と異なっているものはどれか。



23) 片持ち工法で使用するトラベラクレーンと橋上クレーン（移動式クレーン）に関する記述について、誤っているものはどれか。

- ① クレーン重量は、同規模の能力で比較すると、トラベラクレーンのほうが橋上クレーンより軽量である。
- ② 橋上設備について、トラベラクレーンは軌条設備、橋上クレーンは覆工設備が必要である。
- ③ クレーン組立時の完成検査は、トラベラクレーン、橋上クレーンともに必要である。
- ④ 浮き上がり防止について、トラベラクレーンは橋体をアンカーとし、橋上クレーンはクレーン本体のカウンターウェイトで対処する構造となっている。

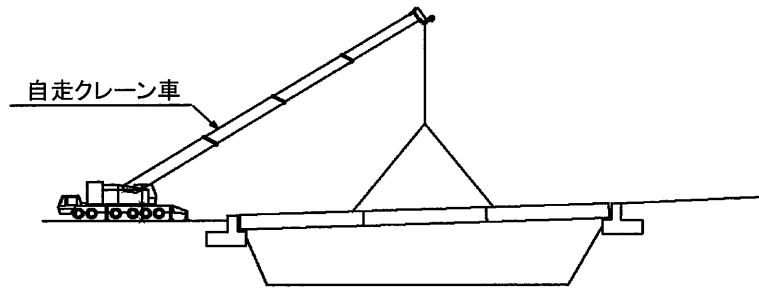
24) ベント、ケーブルクレーン、ケーブルエレクション式直吊り、斜吊り工法等の仮設構造物において、その構造上の欠陥を早期に発見するために必要な測定の項目について、誤っているものはどれか。

- ① 架設の各段階におけるベント基礎等の沈下量
- ② 鉄塔の倒れ、アンカーの移動量
- ③ 湿度
- ④ ワイヤの伸び・ずれ量

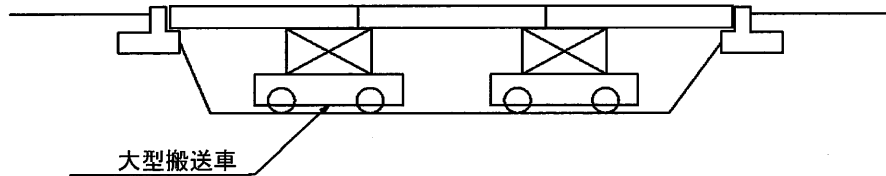
25) 次の選定条件に最もあてはまる一括架設工法を示すイメージ図は①～④のうちどれか。

- 条件
1. ベント架設が不可能である。
 2. 大型クレーンの組立、据付け場所は確保出来る。
 3. クレーン据付け位置の地耐力は確保出来る。
 4. 架設位置付近に橋体の地組ヤードを確保出来る。
 5. 桁下に重機が進入できない。

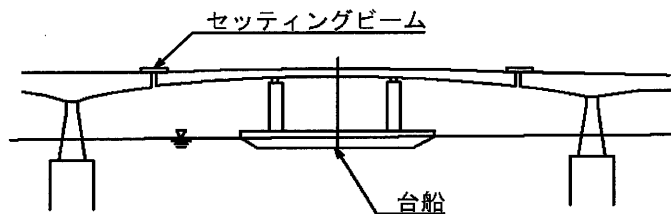
① 自走式クレーン（TC, CC）による一括架設工法



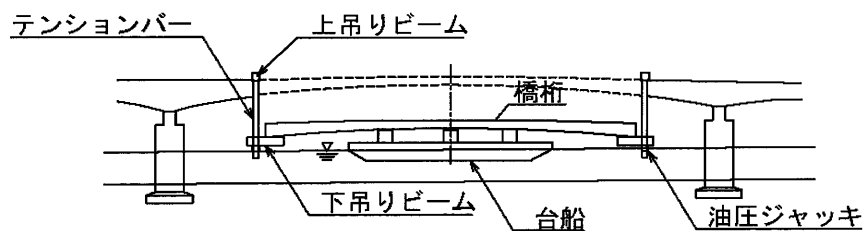
② 大型搬送車による一括架設工法



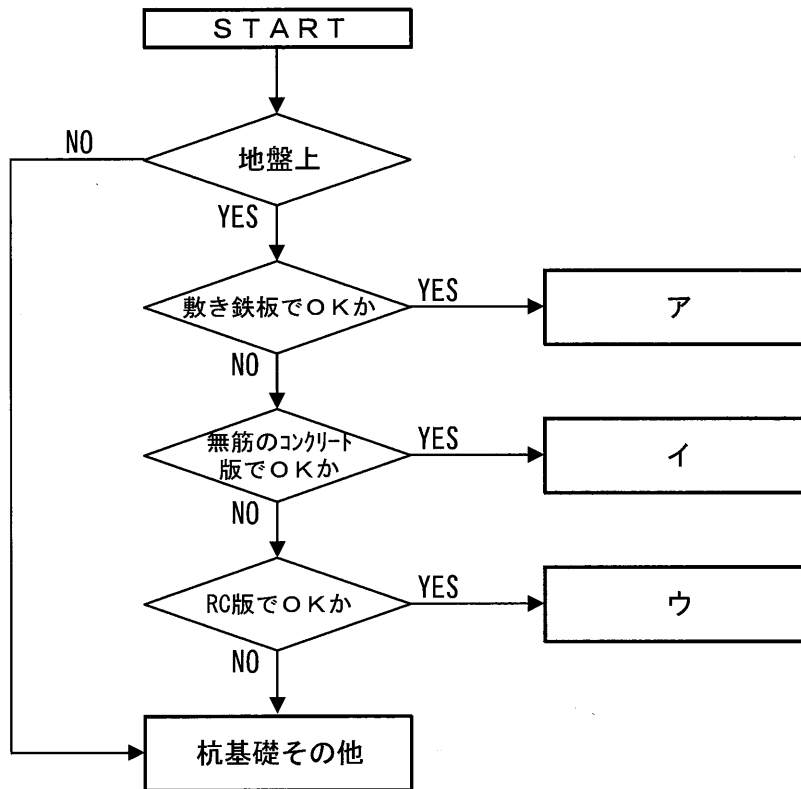
③ 台船による一括架設工法



④ 吊り上げ装置による一括架設工法



- 26) ベント基礎形式の選定フローチャートについて、ア～ウの組合せで正しいものを下の解答群より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

- | | | | |
|---|--------------|--------------|--------------|
| ① | アー無筋コンクリート基礎 | イー鋼板基礎 | ウー鉄筋コンクリート基礎 |
| ② | アー鉄筋コンクリート基礎 | イー無筋コンクリート基礎 | ウー鋼板基礎 |
| ③ | アー鋼板基礎 | イー鉄筋コンクリート基礎 | ウー無筋コンクリート基礎 |
| ④ | アー鋼板基礎 | イー無筋コンクリート基礎 | ウー鉄筋コンクリート基礎 |

- 27) ベント組立時における留意事項について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① ベント基礎形式は、接地圧に係わらず鋼板基礎とする。
- ② 地耐力が均等に得られるように整地する。
- ③ ベントの組立作業は、計画書・手順書に従って行う。
- ④ 組立て途中は、支柱・控え索等で転倒防止を行う。

28) 玉掛けおよび合図について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① 玉掛け作業は、一定の資格を持った者にさせなければならない。
- ② 吊上げる物体の形状や安定度を考慮し、吊上げ方法を事前に十分検討することが大切である。
- ③ 玉掛け用ワイヤロープにかかる張力は、ワイヤロープの吊り角度の影響を受けないので吊り荷の重量のみに留意することが大切である。
- ④ クレーン等の運転を行う者への合図は、運転者によく伝わるよう、決められた動作で大きくわかりやすく行うことが大切である。

29) 足場工についての記述で、正しいものはどれか。

- ① 枠組み足場の組立てにおいて“手すり先行型”を使用する事は、主に作業速度の向上に有効である。
- ② 補修・補強工事に使用する足場は、施工上の制約や部材の取り込み・運搬を行う事例が少ないため、特別な検討を行う必要は無い。
- ③ 橋梁建設工事の死傷災害は足場の設置・撤去作業時の墜落災害が最も多く、補修工事についても同様である。
- ④ 点検・検査や補修・補強工事を実施する上で、足場の出来は本作業の品質や工程に直接影響するほど重要なものではない。

30) 片持ち式架設工法には、一般的に適していない橋梁形式はどれか。

- ① 単純箱桁橋
- ② 連続トラス橋
- ③ 連続箱桁橋
- ④ 上路アーチ橋（スパンドレルブレースタイプ）

鋼橋の新しい現場施工に関する問題

31) 近年の桁送り出し工法は、自動制御による管理システムが多く導入されているが、その効果としての記述で誤っているものはどれか。

- ① 自動反力制御による人為的ミスの低減
- ② 自動制御管理システムによる送り出し制御の無人化
- ③ 送り出しを継続したままで自動反力制御を行うことによる送り出し時間の短縮
- ④ 反力を正確に把握し、不均等荷重を小さく設定できるため、仮設備の低減による経済性の向上

工程計画・作業手順の問題

32) 工程計画では、以下の要点でバランス良く計画することが重要である。①～④の解答群より1～4の文中の()に当てはまる組合せで正しいものを選択し、その番号で答えなさい。

1. 各部分工事の(a)を決める。
2. 各工程に必要な(b)を決める。
3. 全工程期間を通じて作業の繁忙の度合いをなるべく(c)する。
4. 全工事が(d)に完了するように計画する。

①	a－施工期間	b－施工順序	c－小さく	d－無事
②	a－工程	b－材料	c－軽く	d－工期内
③	a－施工順序	b－施工期間	c－平準化	d－工期内
④	a－施工手順	b－工程	c－極端に	d－無事

33) 以下の文章が解説する内容に一致する語句について①～④より選択し、その番号で答えなさい。

不安全な行動をなくすためには、正しい作業のやり方を決め、作業者に教え、これを守らせることが必要である。

- ①不安全行動 ②周知徹底 ③作業工程 ④作業手順

34) 以下の文章が説明する内容に一致する語句について①～④より選択し、その番号で答えなさい。

一般的に、工程とコストは右図のような関係にあり、施工速度を早めるほどコストが下がるが、早めすぎると逆にコストアップとなる。部分的に突貫工事を生じて、コスト悪化を招かないようなバランスの良い施工速度に基づく工事計画が大切である。

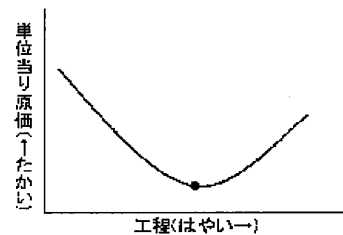


図 工程と原価の関係

- ①経済速度 ②クリティカルパス ③需要と供給 ④工程計画

35) 作業手順書を利用する際、以下について準備作業の中で取り上げると良い。①～④の解答群より1～3の文中の()にあてはまる組合せで正しいものを選択し、その番号で答えなさい。

1. 作業主任者の選任と作業者に対して作業手順の(a)
2. 作業者の資格、健康状態の確認と(b)
3. 使用工具の(c)

①	a－教育	b－適正配置	c－電源
②	a－周知徹底	b－適正配置	c－点検
③	a－周知徹底	b－点検	c－故障
④	a－教育	b－配置	c－組立

維持・補修の問題

- 36) 橋梁の維持管理についての以下の記述で、文中の (a) (b) にあてはまる組合せで正しいものはどれか。

重大な事故を未然に防ぐには、(a) の段階から構造物の (b) を考慮することが重要である。

	a	b
①	工事	ライフサイクル
②	設計	健全度
③	工事	健全度
④	設計	ライフサイクル

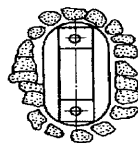
- 37) 鋼構造物の変状のうち、「変形」の内容についての以下の記述で、文中の (a) (b) にあてはまる組合せで正しいものはどれか。

変形は、部材が (a) する現象で、部材そのものが (b) することにより生じる。

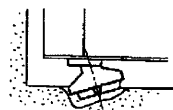
	a	b
①	座屈	面外変形
②	座屈	硬化
③	腐食	面外変形
④	腐食	硬化

- 38) 鋼構造物の変状のうち、「支承の損傷」の損傷事例説明について、誤っているものはどれか。

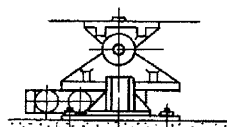
- ① 支承モルタル損傷



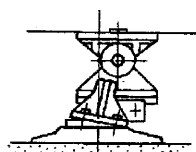
- ② 支承転倒



- ③ アンカーボルトの破損



- ④ サイドブロックおよび
取り付けボルトの破損



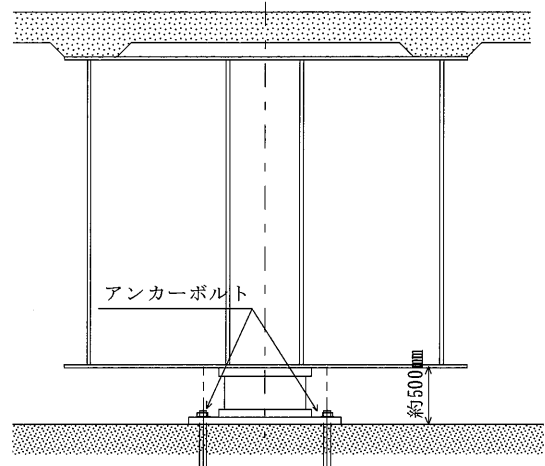
- 39) 「補修・補強」に伴うジャッキ作業についての記述で、以下の（ a ）にあてはまる正しいものはどれか。

橋梁上部工を上下に移動させるジャッキ作業では、本来の支承位置以外に一時的に仮支持点を設け、上部工の荷重を受け止め、下部工に伝達する方法が採られる。この仮支持点は、（ a ）で支持するのが望ましい。

- ① 支点から支間中央側に離れた位置
- ② 支点付近
- ③ 支点から桁端側に離れた位置
- ④ 端横桁

- 40) 下図の支承交換工事のアンカーボルトの施工についての記述で、誤っているものはどれか。

- ① 桁下空間高さが低いことにより、アンカーボルトの削孔・設置作業が不可能になる場合がある。
- ② アンカー削孔時に既設鉄筋が干渉したため、削孔位置をずらした。
- ③ 施工方法、施工機械の検討を行い、機械高の低い改造コアドリルを製作した。
- ④ アンカーボルトはねじ切りカップラー等で分割してはならない。



共通テキスト問題

- 41) 登録基幹技能者の意義・役割について、以下の文中の（ ）にあてはまる語句の組み合わせで正しいものはどれか。

建設産業において、（ a ）の向上を図るとともに、品質、（ b ）、安全面で質の高い施工を確保するためには、現場で直接生産活動に従事する技能労働者、とりわけその中核をなす（ c ）の果たす役割が重要である。

	a	b	c
①	生産性	コスト	職長等
②	コスト	職長等	生産性
③	職長等	コスト	生産性
④	生産性	職長等	コスト

- 42) 登録基幹技能者の必要性について、以下の文中の（ ）にあてはまる語句の組み合わせで正しいものはどれか。

建設業就業者数も（ a ）をピークに減少している。このように限られた労働力のなかで効率的で経済的な建設工事を実施してゆくためには、建設現場において（ b ）・コスト・安全面等で質の高い施工を実現できる（ c ）な技能者の確保・育成・活用が必要である。

	a	b	c
①	平成 3年	品質	優秀
②	平成 5年	優秀	品質
③	平成 7年	優秀	品質
④	平成 9年	品質	優秀

- 43) 登録基幹技能者に求められる能力について、以下の1~3の文中の（ ）にあてはまる語句の組み合わせで正しいものはどれか。

1. 十分な経験を有し、熟達した作業能力
 - ・ 一般の技能者を指揮・監督できるだけの十分な作業能力を有する
 - ・ 出来上がりの点検、工事の是正ができる
 - ・ （ a ）の作業者をレベルアップさせるOJTを行う能力を有する
2. 技術の進展等に的確に対応した技術に関連した知識
 - ・ （ b ）の示す施工計画等から現場に適した技能面からの施工方法、作業手順、工夫の提案能力
3. 現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力
 - ・ 技術者、他の職長との調整能力
 - ・ 一般の技能者に対する（ c ）

	a	b	c
①	指導・統率力	未熟練	技術者
②	技術者	未熟練	指導・統率力
③	未熟練	技術者	指導・統率力
④	技術者	指導・統率力	未熟練

44) 登録基幹技能者に求められる能力の詳細（知識、技能）について、以下の1～4の文中の（ ）にあてはまる語句の組み合わせで正しいものはどれか。

1. 施工技術に係る基本的な知識を有し、工事の各作業工程を通じて的確に施工管理を行うことができる。
2. 安全管理に係る基本的な知識を有し、作業手順書の作成、（ a ）、新規入場時の受入教育、作業改善等の一連の安全管理活動ができる。
3. 品質管理に係る基本的な知識を有し、工程表に基づき工程の（ b ）を行うことができる。また、不測の事態の発生に対応する修正工程の立案ができる。
4. 原価管理に係る基本的な知識を有し、常に（ c ）をもって行動することができる。

	a	b	c
①	KY活動	進捗管理	コスト意識
②	進捗管理	コスト意識	KY活動
③	コスト意識	KY活動	進捗管理
④	KY活動	コスト意識	進捗管理

45) OJTの指導育成にあたり、目標・項目設定の重要なポイントとされる次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① 日常の仕事を通じて行う指導・教育が可能な目標・項目であること。
- ② 目標・項目は定量的で抽象的であること。
- ③ 部下が意欲をもって取り組める目標・項目であること。
- ④ 目標・項目は設定期間終了時に評価が可能であること。

46) OJTの指導方法で部下の意欲と能力等を向上させる基本的な手法に関して、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① 教える、やってみせる、やらせてみる、修正するの順序を繰り返す。
- ② 基幹技能者が模範を示し、やって見せて見習わせることが効果的である。
- ③ 経験は、人間の成長に極めて大きな影響を及ぼす成長の原点である。
- ④ 指導・教育者は、自分の意見を貫き、相手の意見を受け入れないことに徹する。

47) 「仕事（ビジネス）と管理者（マネージャー）」に関する内容で、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① 仕事とは難しいことや問題点の集合体であり、危険、事故、災害等、リスクの集合体である。
- ② 難しい仕事、人のやりたがらない仕事にチャレンジすることにより、個人の成長と実力が高まり、会社の業績と評価が高まる。
- ③ 「現場責任者の役割と位置付け」によると、2次以下の下請けでは、現場代理人、主任技術者、安全衛生責任者を選任しなくてもよいとされている。
- ④ 「出会い、あいさつ、気づき」を通して「動機付け、自信、意識、意欲、使命感」が高まり「やる気」につながる。

- 48) 建設業法では、建設工事の請負契約の当事者である元請負人と下請負人は、対等な立場で契約すべきであり、契約書面には建設業法で定める一定の事項を記載しなければならない。下記の事項のうち記載しなくてもよい事項はどれか。
- ① 工事内容
 - ② 取引金融機関
 - ③ 工事着手の時期及び工事完成の時期
 - ④ 請負代金の額
- 49) 建設業法第40条の3によると、建設業者は営業所ごとに、営業に関する事項を記録した帳簿を備え、一定期間保存しなければならないとされる期間は、次のうちどれか。
- ① 2年間保存
 - ② 3年間保存
 - ③ 4年間保存
 - ④ 5年間保存
- 50) 管理のサイクルをうまく回すことが一般に有効であるとされるが、P・D・C・Aの意味する内容で、誤っているものはどれか。
- ① 「P」とは「プラン」のことで、『目標を決めて』の意味である。
 - ② 「D」とは「ドゥ」のことで、『実行し』の意味である。
 - ③ 「C」とは「チェック」のことで、『目標どおり間違いなく行われているかどうかチェックして』の意味である。
 - ④ 「A」とは「アレンジ」のことで、『整える』の意味である。

受講番号

採点欄

※この欄には記入しないでください

登録橋梁基幹技能者講習 平成23年度試験問題の解答用紙

問題	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)
解答	③	②	①	④	③	①	②	③	④	③

問題	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)
解答	②	②	①	③	②	③	③	①	①	①

問題	21)	22)	23)	24)	25)	26)	27)	28)	29)	30)
解答	②	④	③	③	①	④	①	③	③	①

問題	31)	32)	33)	34)	35)	36)	37)	38)	39)	40)
解答	②	③	④	①	②	④	①	③	②	④

問題	41)	42)	43)	44)	45)	46)	47)	48)	49)	50)
解答	①	④	③	①	②	④	③	②	④	④